

# 第 102 回実践勉強会 実施レポート

平成 30 年 12 月 11 日 大田文化の森 多目的室

共催 キッセイ薬品工業

参加者 80 名

特別講演

## 「過活動膀胱治療/排尿障害治療」

東邦大学医療センター大森病院 泌尿器科 講師 青木 九里 先生

質問 1 :

過活動膀胱治療において、抗コリン薬は効果・副作用の面から中枢への影響も懸念されているが、新たな  $\beta 3$  刺激薬も出る中で、今後  $\beta 3$  にメインは変わっていくのか

回答 1 :

泌尿器科では既にファーストチョイスは  $\beta$  刺激作用薬に変わってきている。患者層は広いので、今後更に若い年齢の女性にも使える事はメリットである。

質問 2 :

残尿 100cc 以上で水腎症になる可能性があるとの部分を詳しく教えて欲しい。

回答 2 :

膀胱から尿管に尿が逆流することがある。ガイドライン上でも 100cc 以上では逆流機構が破綻するので気をつけた方が良い。抗コリン薬や風邪薬の服用は避けるよう指導している。

質問 3 :

飲水量は味噌汁などの食事で摂取する分を含んでいるのか。また、カフェインの影響はあるか。カフェインの効果は尿量か、回数か。

回答 3 :

食事含有量についても排尿記録に記載するよう指導しているが、患者は理解していない部分も多い。飲水指導の方が記憶に残りやすく影響してしまう。カフェインに関しては夜間の摂取を抑えるよう問診時に確認。経験上は尿量が増すと考えている。